

1. はじめに

宮滝遺跡は吉野町宮滝に所在する縄文時代～中世の遺跡です。近畿地方の縄文時代後期の標識・宮滝式が初めて確認されたほか、壬申の乱の起点となった吉野宮・聖武天皇らが訪れた吉野離宮などのものとされる遺構が確認されたことで知られています。各時代の遺物・遺構が確認される山地の遺跡として学術的価値が認められ、遺跡の一部は国の史跡指定を受けています。

今回の調査は文化庁・奈良県・奈良県教育委員会からの補助を受けて、宮滝遺跡の内、国史跡に指定範囲の一部を遺跡整備するため、発掘調査を行いました。調査地周辺では奈良時代の吉野離宮のものとされる遺構が確認されており、その広がりなどを確認することが主な目的です。調査面積は約 770㎡です。

2. 調査の内容

調査は 3 カ所で行い、川下側から第 1 調査区、第 2 調査区、第 3 調査区としました。

第 1 調査区： 石敷き遺構 2 か所、石組み溝 3 条などを確認しました。

- ・石敷き遺構 1：人頭大の石を敷き詰めた石敷き遺構で、およそ 1.9m × 2.7 m の範囲で検出しました。後述の石組み溝 1 を伴い、調査区の東側へ続く、東西方向の通路跡とみられます。
- ・石敷き遺構 2：人頭大の石を敷き詰めた石敷き遺構で、およそ 2.8m × 3.8m の範囲で検出しました。後述の石組み溝 2 を伴う、南北方向の通路跡とみられます。
- ・石組み溝 1：石敷き遺構 1 に伴い、調査区の東側へのびる東西方向の溝です。こぶし大よりもやや大きめの石を組み合わせています。2.6 m 分検出しました。
- ・石組み溝 2：平面で見ると L 字状に曲がる溝です。石組み溝 1 の延長上に 1.1 m 分、石敷き遺構 2 とぶつかった後は方向を 90 度変えて、南北方向に 6.7 m 分のびます。こぶし大よりもやや大きめの石を組み合わせてつくられています。
- ・石組み溝 3：東西方向にのびる溝で、断続的に 3.3 m 分検出しました。こぶし大からやや大きめの石を組み合わせてつくられています。

第 2 調査区： これまでの調査で、石組み溝の底石であると確認されている石列を検出しました。

- ・石組み溝（石列）：人頭大以上の石を用いた、東西方向へのびる石列を、断続的に約 25m 検出しました。調査区の東側に続き、西側にももう少しのびていたとみられます。

第 3 調査区： 昨年度検出した土坑の規模を確認しました。

- ・土坑：直径約 5.1m の土坑です。土坑内からは、奈良時代の瓦などが出土しています。

まとめ

- 1) 聖武天皇らが訪れた吉野離宮のものとされる石敷き遺構、石組み溝遺構の広がりを確認でき、その形状を復元するための資料を得ることができました。
- 2) 石敷き遺構等が確認されていた場所から少し離れた場所で、奈良時代の瓦を包含する土坑が確認できたことで、宮滝遺跡における奈良時代の遺構の広がりを確認できました。

宮滝遺跡（第 68 次調査）



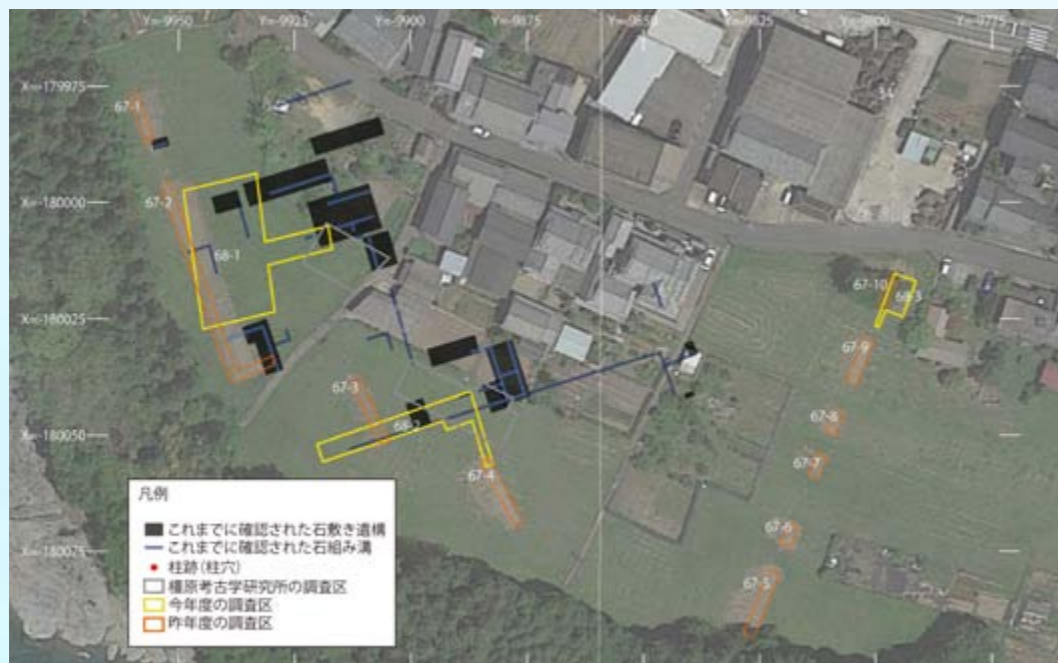
奈良時代の吉野離宮復元イメージ図（吉野歴史資料館蔵）

平成 29 年 3 月 25 日

吉野町教育委員会



宮滝遺跡の位置（南から見た鳥瞰図）



宮滝遺跡の調査位置図（黄色の線が平成 28 年度調査区）



第 3 調査区で出土した軒平瓦



第 1 調査区全景（遺構検出写真・北から撮影）



第 3 調査区土坑（部分・南から撮影）



第 2 調査区石組み溝底石（遺構検出写真・東から撮影）